

平成22年度 経営計画の概要

平成22年3月

四国電力株式会社

◇平成22年4月6日開催説明会での説明内容

平成22年度 経営計画の概要について、ご説明いたします。

はじめに

よんでんグループでは、激変する事業環境の中、将来に向け持続的に成長するための羅針盤として「よんでんグループビジョン」を掲げ、「暮らしを支えるマルチユーティリティ企業グループ」への変革・成長を目指し、事業活動を展開しております。

こうした経営革新に向けた取り組みを進める中、特に平成22年度は、ビジョン実現に向けた5カ年のアクションプランとして取り組みを進めております「中期経営構想」の最終年度にあたり、ラストスパートの年となります。

さらに総合エネルギー企業としての基盤整備を図る観点から進めてまいりました「坂出LNGプロジェクト」についても、本格導入となる1号機のリプレースが最終段階を迎えており、よんでんグループのさらなる飛躍に向け、しっかりと足場を固める年と位置づけております。

このたび、グループの諸活動の状況を「平成22年度経営計画の概要」として取りまとめましたので、ご高覧いただき、「よんでんグループ」に対するご理解を深めていただければ幸いです。

平成22年3月
四国電力株式会社

【目次】

I. よんでんグループビジョン -----	1
II. 平成22年度 供給計画の概要 -----	3
1. 電力需要の見通し -----	4
2. 電力需給計画 -----	5
【参考1】電源開発・流通設備計画 -----	6
【参考2】設備投資額 -----	7
III. 平成22年度 経営の重点課題 -----	8
1. 時代に適応した中長期的な安定供給基盤の強化 -----	9
2. お客さま本位の事業運営の徹底 -----	11
3. よんでんグループの社会的価値・信頼ブランドの向上 -----	17
【参考】企業集団の状況 -----	20

I. よんでんグループビジョン

1

よんでんグループでは、将来にわたって皆さまと共に持続的成長を遂げていくために、以下のミッションとビジョンを掲げ、その実現に向けてグループ一体となって取り組んでいます。

グループミッション

四国電力グループは、エネルギーを中心として、人々の生活に関わる様々なサービスを、高い品質で提供し続けることにより、快適・安全・安心な暮らしと地域の発展に貢献します。

グループビジョン ~目指すべき企業グループ像~

暮らしを支えるマルチユーティリティ企業グループ

四国地域を基盤に、お客さまから最も信頼されるパートナーとして、エネルギーから情報通信、ビジネス・生活サポートまで、多様なサービスをワンストップで提供できる企業グループへの変革・成長を目指します。



All Rights Reserved©2010 YONDEN Shikoku Electric Power Co.,Inc.

ここでは、当社グループの中長期的な羅針盤として「よんでんグループビジョン」を記載しております。

内容については、従来からご説明しているとおりでありますので割愛させていただきます。

グループビジョンの実現に向け、実効性のある5カ年プランとしての中期経営構想の中で、具体的な経営課題と数値目標を以下のとおり定めています。

◆ ビジョン実現に向けた6つの課題 ◆

- ・競争に勝ち抜くコスト体質の構築
- ・営業力の強化
- ・戦略分野への経営資源投入
- ・人材の育成と組織活力の向上
- ・技術レベルの維持・向上
- ・グループブランドの醸成・強化

◆ 数値目標（連結） ◆

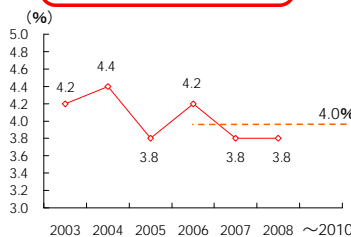
2006（平成18）～2010（平成22）年度

ROA
〔総資産営業利益率〕 平均 4.0%以上

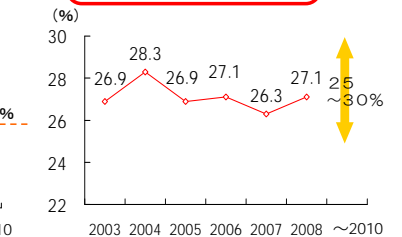
自己資本比率 25～30%

電力販売拡大 5年間で10億kWh

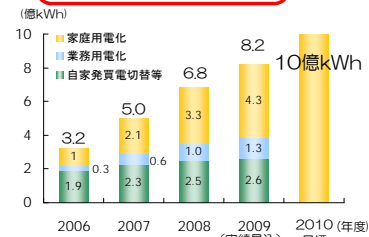
ROAの推移



自己資本比率の推移



電力販売拡大の推移



All Rights Reserved©2010 YONDEN Shikoku Electric Power Co.,Inc.

2006～10年度の5カ年を対象とした現行の中期経営構想のなかで掲げた6つの課題と、数値目標およびその推移の状況を記載しております。

数値目標として、ROA平均4%以上、自己資本比率25～30%、電力販売拡大5年間で10億kWhを掲げておりますが、残り1年間、その達成に向けて引き続き努力してまいります。

Ⅱ. 平成22年度 供給計画の概要

1. 電力需要の見通し	4
2. 電力需給計画	5
【参考1】電源開発・流通設備計画.....	6
【参考2】設備投資額	7

「平成22年度の供給計画の概要」について
ご紹介しております。

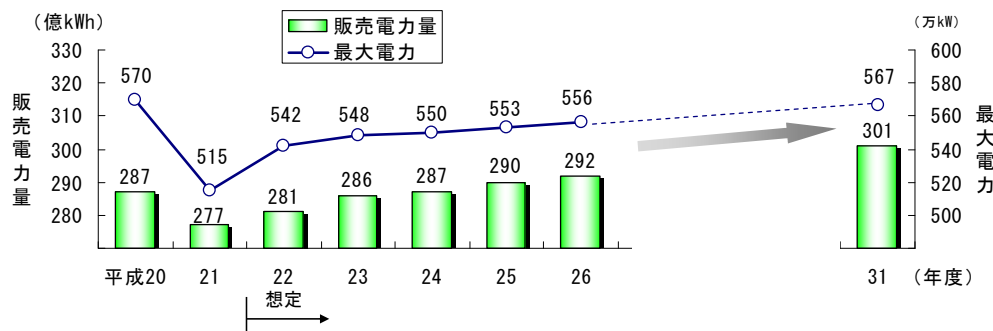
1. 電力需要の見通し

わが国経済は、世界的な景気の急激な後退により企業の生産・投資活動や個人消費、住宅投資が低迷するなど、依然として厳しい局面にあります。

こうした経済状況のもと、当社の電力需要も大口電力を中心に厳しい状況が続いておりますが、今後は景気回復に伴い緩やかな増加基調に戻るものと見通しており、平成31年度の販売電力量は301億kWhで、平成20年度からの年平均伸び率は、0.4%（気温閏補正後）と想定しております。

また、最大電力については、平成31年度で567万kW、平成20年度からの年平均伸び率は0.2%（同）と想定しております。

◇電力需要の見通し



電力需要については、一昨年秋からの景気低迷の影響を受け、当社管内でも産業用を中心に厳しい状況が続いておりますが、中長期的には景気回復に伴い緩やかな増加基調に戻るものと見通しております。

具体的には、10年後の平成31年度の販売電力量は301億kWh、20年度からの年平均伸び率は0.4%と想定しております。

また、31年度の最大電力は567万kW、20年度からの年平均伸び率は0.2%と想定しております。

2. 電力需給計画

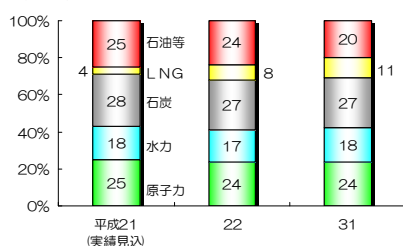
5

ベース供給力を担う原子力を軸に、水力、火力を最適に組み合わせて効率的で安定した電力需給を実現してまいります。

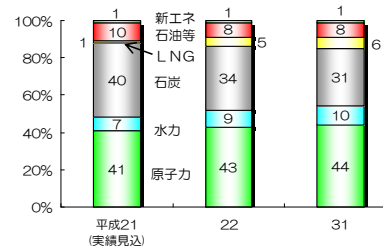
◇最大電力バランス

項目	年度						
	平成21 (実績)	22	23	24	25	26	31
最大電力 (万kW)	515	542	548	550	553	556	567
供給力 (万kW)	644	667	651	634	671	657	646
供給予備力 (万kW)	129	125	103	84	118	101	79
供給予備率 (%)	25.0	23.1	18.7	15.3	21.3	18.2	14.0

◇年度末設備構成比率 (含受電)



◇発電電力量構成比率



All Rights Reserved©2010 YONDEN Shikoku Electric Power Co.,Inc.

最大電力バランスの表中の供給予備率をご覧いただくと、向こう10年間、最大電力の増加見通しに対して十分な供給力を確保している状況が分かりいただけると思います。

棒グラフの左側は年度末の設備構成比率を、右側は発電電力量の構成比率を示しております。

坂出發電所へのLNG導入により、平成31年度時点のLNG比率は、設備構成比率で11%、発電電力量構成比率で6%となる見通しです。

◇電源開発計画

	発電所	出力	運転開始
LNG導入	坂出1号 〔LNGコンバインドサイクル〕 へのリプレース	29.6万kW	平成22年8月
	坂出2号 〔LNGコンバインドサイクル〕 へのリプレース	28万kW級	平成28年度
水力発電設備の増設	蔭平2号	150kW	平成22年4月
太陽光発電設備の増設	松山太陽光発電所	1,742kW	平成23年1月

◇流通設備計画

基幹ネットワークに大きな変更はありませんが、既存設備について、需要の伸びにあわせ、適切な時期・規模での増強・更新を行い、合理的な設備形成を図ります。



今後10年間の電源開発計画のうち、坂出發電所へのLNG導入につきましては、本年8月に運転開始予定の坂出1号に加え、新たに坂出2号のLNGコンバインドサイクルへのリプレースも計画に織り込み、平成28年度中の営業運転開始を目指すこととしております。

このほか計画している水力や太陽光発電設備の増設とあわせて、電源の低炭素化に取り組んでまいります。

一方、流通設備計画につきましては、記載のとおり、基幹ネットワークに大きな変更はありません。

◇当社設備投資額（附帯事業を含む）

（億円）

項目	年度	平成21 (実績見込)	22	23
	電 源		328	308
送 電		44	43	50
変 電		55	69	63
配 電		106	98	91
そ の 他		42	77	60
小 計		575	594	559
原 子 燃 料		183	128	182
合 計		758	723	741

(注) 四捨五入の関係で合計があわない場合があります。

平成23年度までの設備投資額の各内訳については、年度間で多少の増減はありますが、全体では概ね平成21年度並みの水準を計画しております。

Ⅲ. 平成22年度 経営の重点課題

1. 時代に適応した中長期的な安定供給基盤の強化 -----	9
2. お客さま本位の事業運営の徹底 -----	11
3. よんでんグループの社会的価値・信頼ブランドの向上---	17
【参考】企業集団の状況 -----	20

- 「平成22年度の経営の重点課題」として、
- ・時代に適応した中長期的な安定供給基盤の強化
 - ・お客さま本位の事業運営の徹底
 - ・よんでんグループの社会的価値・信頼ブランドの向上
- の3点について記載しております。

1. 時代に適応した中長期的な安定供給基盤の強化（1 / 2）

9

よんでんグループは、地域の皆さまに低廉で良質な電気を安定してお届けすることが最大の使命です。昨今はこうした基本的使命に加え、地球温暖化対策が社会的な課題となる中、低炭素社会の実現に向け、電気事業者としての果たす役割も高まっております。私どもは、こうした情勢を踏まえ、安定性、経済性の追求はもとより、「環境との調和」を図り、時代に適応した中長期的な安定供給基盤の強化に取り組んでまいります。

（1）坂出LNGプロジェクトの完遂

経済性、環境性に優れ、将来の安定供給の一翼を担う「坂出LNGプロジェクト（1号機、4号機へのLNG導入）」の完遂を目指します。

また、2号機についても、平成26年度の工事着工、平成28年度の営業運転開始を目指し、LNGコンバインドサイクル発電設備へのリプレースを計画的に進めてまいります。

	1号機	2号機	4号機
出力	29.6万kW	28万kW級	35万kW
設備概要	既存設備を廃止、 コンバインドサイクル発電設備を新設		燃料転換
運転開始	平成22年8月	平成28年度 (着工：平成26年度)	平成22年3月



建設中の坂出発電所1号機



坂出LNG基地



All Rights Reserved©2010 YONDEN Shikoku Electric Power Co.,Inc.

1つ目の重点課題「時代に適応した中長期的な安定供給基盤の強化」について説明します。

よんでんグループにとりまして、地域の皆さまに電気を安定供給することは、これからも変わらぬ重要な社会的使命であります。

これに加え、今後は低炭素社会の実現に向け、これまで以上に「環境適応性」が強く問われるとの時代認識のもと、環境との調和に配慮しながら、「中長期的な安定供給基盤の強化」に着実に取り組んでまいります。

その一翼を担う「坂出LNGプロジェクト」のうち、燃料転換した4号機については計画通り先月末に営業運転を開始いたしました。

残る1, 2号機のリプレースについても、計画通りの導入を進めてまいります。

(2) 原子力の長期安定・安全運転の維持

○低廉かつ低炭素な電力の供給

原子力発電は、発電時にCO₂を排出せず、環境負荷が小さいことから、地球温暖化対策の切り札としての重要性が一段と高まっています。

こうした中、伊方発電所の設備利用率は、近年、概ね80%以上と高水準を維持しており、これにより設備の効率的な運用を実現すると同時に、電力供給の低炭素化に大きく貢献しています。

今後とも、伊方発電所では、耐震安全性の向上、新検査制度への対応などを通じ、長期安定・安全運転の維持に努めてまいります。



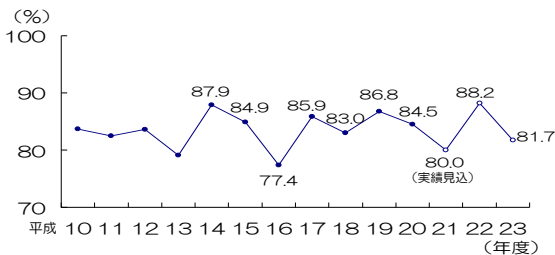
高水準の設備利用率を維持する伊方発電所

○プルサーマル計画の着実な実施

伊方発電所3号機では、「ウラン資源の有効利用」「エネルギーの安定供給」の観点から、ウラン・プルトニウム混合酸化物（MOX）燃料を採用したプルサーマルによる発電を開始しています。

今後とも、安全を最優先にプルサーマル計画の着実な実施に努めてまいります。

◇伊方発電所の設備利用率の推移



原子力発電の設備利用率について、伊方発電所では、過去10年間、概ね80%以上の水準を維持しており、こうした安定・安全運転の継続が、コストダウンはもとより、CO₂排出の削減にも大きく寄与し、当社の強みの源泉になっていると認識しております。

また、「伊方3号機のプルサーマル導入」につきましても、先月より発電を開始し、順調に運転を続けております。

今後とも、伊方発電所では、耐震安全性の向上や新検査制度への対応を講じるとともに、地域の皆さまのご理解を得ながら、長期安定・安全運転の維持に努めてまいります。

よんでんグループは、地域の皆さまや社会の「しあわせのチカラになりたい」を合言葉に、電気をはじめとしたエネルギーを中心に、お客さまに喜ばれ満足していただける高品質なサービスの提供に努めてまいりたいと考えています。

(1) 電力販売活動の強化・推進

お客さまの多様なニーズを的確に捉え、快適性、経済性、環境性などに優れた「電気」ならではのメリットを訴える電力の販売活動を強化・推進することで、お客さまのエネルギー利用における「電化」へのシフトを推し進めてまいります。

○ソリューションサービスの展開

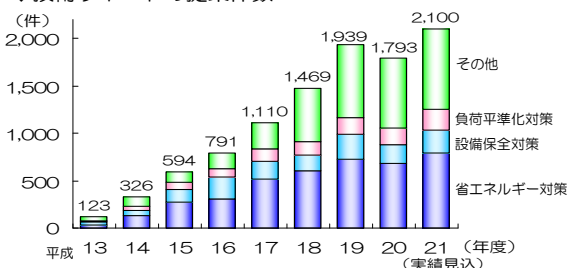
省エネ診断や機器取替による設備効率の改善など、お客さまが直面する様々な技術的課題に対して、よんでんグループの技術力やノウハウを活用し、より良い解決策を提案する「技術サポート活動」を推進しています。今後も、省エネ、省コスト、環境負荷の低減などを実現するトータルなソリューションサービスを提供してまいります。



お客さまの技術的な課題解決のため、きめ細かなコンサルティングを実施



◇技術サポートの提案件数



All Rights Reserved©2010 YONDEN Shikoku Electric Power Co.,Inc.

2つ目の重点課題は、「お客さま本位の事業運営の徹底」であります。

その取り組みとして、「電力販売拡大の強化・推進」を掲げております。私どもは、電化へのシフトを推進することで、お客さまの省エネ、省コスト、環境負荷の低減に貢献してまいります。

ここでは具体例として、技術面でのソリューションサービスの実施状況を示しております。お客さまの抱える技術的課題に対して、当社グループが保有する技術力やノウハウを活用して解決策を提案するこのサービスは、お客さまから大変ご好評をいただいております。年間提案件数は2,100件に達する見込みです。

今後とも、お客さまの多様なニーズにお応えできるよう、グループの総合力を活かして積極的に展開してまいります。

○住宅電化・業務用電化の推進

(家庭用)

ご家庭のお客様に対しては、「安心」「快適」「経済的」、さらには「環境にやさしい」といった電化のメリットをPRすることで、IHクッキングヒーター、エコキュート、電気温水器を備えた電化住宅の普及促進に引き続き努めてまいります。

(業務用)

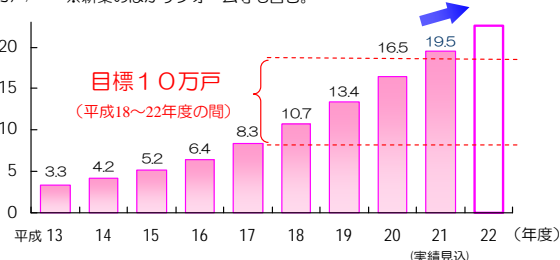
オフィスビルや商業施設、学校、病院などの業務用分野のお客様に対しては、付加価値の高い電化システムをグループ一体となり積極的に提案してまいります。

特に、エネルギーの利用効率が高いヒートポンプを活用した「電気空調」「給湯」などの普及を推進してまいります。

電化住宅採用戸数、業務用電化開発容量については、中期経営構想で掲げている数値目標を平成21年度で達成いたしました。平成22年度は、さらなる成果を目指し、取り組みを強化いたします。

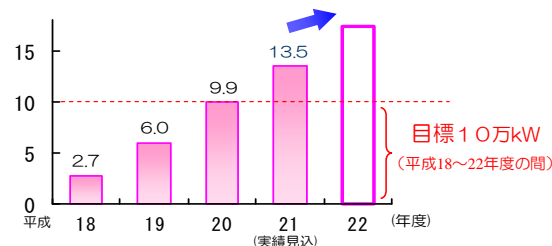
◇電化住宅採用戸数(累計)

(万戸) ※新築のほかリフォーム等も含む。



◇業務用電化開発容量(18年度からの累計)

(万kW)



住宅用・業務用分野での電化の推進について、電化住宅は、平成18年度からの5年間で10万戸の増加を目指してまいりましたが、21年度までの累計で11.2万戸に達する見込みです。

業務用電化につきましても、18年度からの5年間で10万kW増加との目標に対し、21年度までに13.5万kWとなる見込みです。

いずれの販売目標も、1年前倒しで達成する見込みですが、これに満足することなく、より一層の販売拡大に努めてまいります。

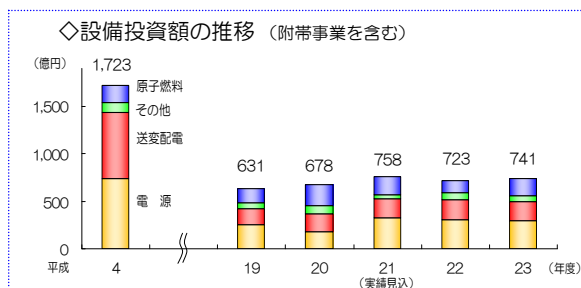
(2) 効率的、計画的な設備の形成・運用・保守の推進

よんでんグループでは、引き続き、低廉かつ安定的に電気をお届けできるよう、中長期的な視点にたち、効率的、計画的な設備の形成・運用・保守を進めてまいります。

○設備投資

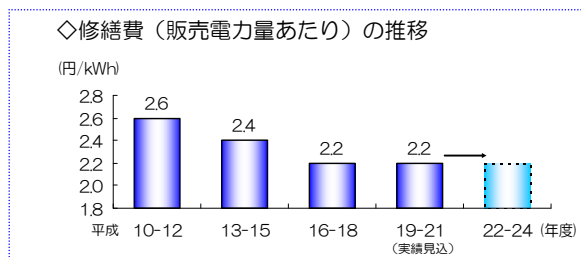
設備投資額は、効率的な設備形成を進めてきた結果、平成4年度をピークに減少しており、至近はピーク時の4割程度の水準となっております。

今後は、伊方発電所の耐震性向上工事、設備の高経年化対策などに適切に対処していく必要があることから、概ね現状の水準で推移する見通しです。



○修繕費

修繕費についても、効率化を進めた結果、10年前に比べ販売電力量あたりでは8割程度にまで抑制しており、引き続き現状の水準を維持してまいります。



「お客様本位の事業運営の徹底」に向けた2点目の取組みは、「効率的・計画的な設備の形成・運用・保守の推進」であります。

まず、設備投資額につきましては、先程もご覧いただきましたように、平成21年度は700億円台半ばと、ピーク時の4割程度の水準となっております。今後は、伊方発電所の耐震性向上工事や、設備の高経年化対策などを適切に対応しながら、概ね現状の水準で推移する見通しです。

修繕費につきましても、効率化を進めた結果、10年前に比べて販売電力量あたりでは約8割程度にまで抑制しております。新たな削減余地は限られてきつつありますが、今後とも現状の水準を維持してまいりたいと考えております。

(3) グループ事業の推進と新たな事業領域の開拓

よんでんグループでは、「暮らしを支えるマルチユーティリティ企業グループ」の実現に向けて、四国地域を基盤に、お客さまから最も信頼されるパートナーとして、エネルギーから情報通信、ビジネス・生活サポートまでの多様なサービスを提供してまいります。また、新たな事業領域の開拓についても、グループの総合力を活かし、果敢にチャレンジしてまいります。

総合エネルギー

LNG販売事業

坂出LNG基地の運転開始に伴い、地元ガス会社への卸供給や大口のお客さまへのLNG販売を実施するとともに、大口販売の営業活動を継続し、LNG販売事業の拡大に向けた取り組みを推進します。販売数量については、平成23年度には年間10万トン超の目標を達成できる見通しとなっています。



坂出LNG基地に入港したLNG第一船

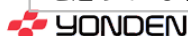
海外事業

海外事業は、グループが保有するノウハウや人材などの経営資源を有効に活用できるとともに、将来に向けた新たな収益源となる有望な事業分野と位置づけています。

現在、初の海外発電事業となるカタール国の「ラスラファンC発電・造水プロジェクト」に参画しており、平成23年4月の運転開始に向け、建設工事を進めています。

◇ラスラファンC発電・造水プロジェクトの概要◇

- ・発電設備：273万kW ガス・ビ・コンバインド サイクル発電設備
- ・造水設備：29万トン/日 海水淡水化設備
- ・電力・水の販売先：カタール電力・水公社
- ・総事業費：約39億米ドル



「グループ事業の推進と新たな事業領域の開拓」に関して、LNG販売につきましては、四国ガス(株)への卸供給に加え、大口のお客さまへの販売見込量を合わせますと、平成23年度には目標である10万トン超の達成が可能な見通しを得ております。今後も引き続き販売拡大に向けた取り組みを推進してまいります。

海外事業につきましては、当社初の海外発電事業としてカタール国の「ラスラファンC発電・造水プロジェクト」に参画しており、平成23年4月の運転開始に向けて建設工事を着実に進めております。この分野は、将来の新たな収益源となり得ることから、今後ともこれまで培った社外関係企業・機関とのネットワークを活用しながら、引き続き注力してまいります。

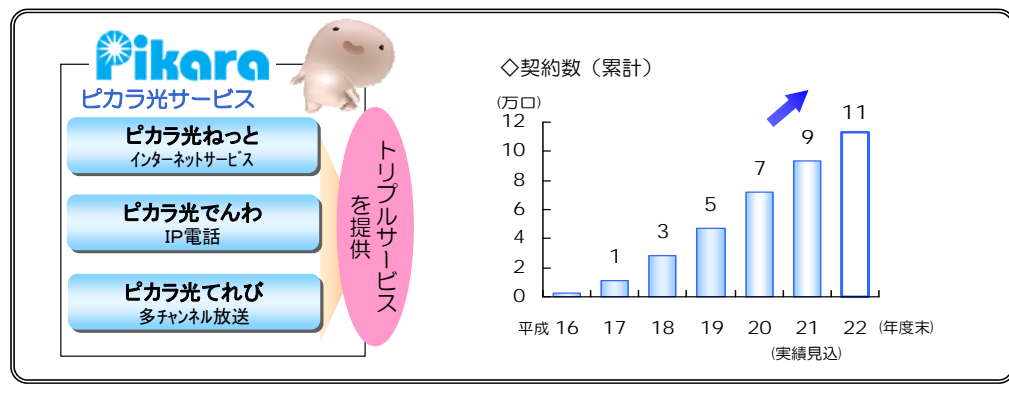
情報通信

FTTH事業

よんでんグループにおける情報通信分野では、(株)STNetを中心に情報と通信を一体的に提供できる強みを活かし、付加価値の高い情報通信サービスの提供に努めています。

なかでも、ご家庭に大容量・高速の光通信サービスを提供するFTTH事業に注力しており、個人向けの「ピカラ光サービス」を四国の4県都を中心に提供しています。

契約数については、順調に推移しており、平成22年度末までに11万契約を獲得し、平成23年度の単年度黒字化を目指しています。



情報通信分野での取り組みとして、FTTH事業に力を入れております。

グループ企業である(株)STNetが提供している「ピカラ光サービス」については、四国の4県都を中心に事業展開し、2年連続で四国地区における最優秀事業者に選定されるなど、信頼性や回線品質、料金などサービス面でお客さまからご好評をいただいております。

契約者数についても順調に推移しており、平成22年度末までに11万件の契約の獲得を目指しております。

ビジネス・生活サポート

「ビジネス・生活サポート」の分野では、グループで培った技術力や信用力を活かし、自治体関連事業や介護事業など地域のビジネスや生活に密着した多様なサービスを展開しています。

自治体関連事業

○ PFI 事業 ※1

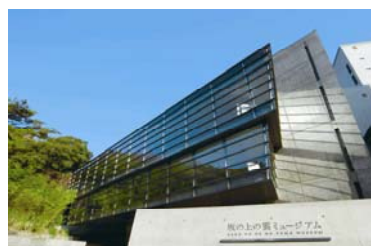
事業主体	事業内容
宇多津給食サービス	宇多津新給食センター整備運営事業
徳島市高PFIサービス	徳島市立高等学校校舎整備等事業 (平成20年9月 建設開始、22年6月 完成予定)

介護事業

事業主体	事業内容	施設名
よんでんライフケア	介護付有料老人ホーム事業	アミーコよんでん道後(松山市) アミーコよんでん栗林(高松市)

○ 指定管理者制度(受託施設) ※2

自治体	施設名
高知市	ヨネッツこうち(四電ビジネス) 高知市文化プラザ(四電ビジネス)
松山市	松山市坂の上の雲ミュージアム(四電ビジネス)
伊方町	伊方スポーツセンター(伊方サービス)
香川県	香川県立体育館・武道館(四電工) 香川県立丸亀競技場(四電工) 香川県立総合水泳プール(四電ビジネス)
高松市	ループしおのえ(四電ビジネス)



「松山市 坂の上の雲ミュージアム」

※1:PFI事業…公共施設の整備事業において、民間が資金を調達し、設計・建設を行うとともに、施設の維持管理・運営なども一括して行う事業手法

※2:指定管理者制度…自治体が所有する公共施設の管理・運営について、外郭団体や民間企業等に包括的に代行させる制度



All Rights Reserved©2010 YONDEN Shikoku Electric Power Co.,Inc.

ビジネス・生活サポート分野での取り組みとして、自治体関連のPFI事業や指定管理者制度、さらには介護事業などに、当社グループが持つ技術力や信用力といった強みを活かしながら、積極的に取り組んでおります。

余談になりますが、昨年末にNHKでドラマ化された司馬遼太郎の小説「坂の上の雲」にちなんだ展示施設が愛媛県松山市にあります。この施設の運営も当社グループが受託しております。

3. よんでんグループの社会的価値・信頼ブランドの向上（1/3）¹⁷

よんでんグループでは、地域の皆さまからの信頼こそが全ての事業活動の源泉であるとの認識のもと、社会的価値・信頼ブランドのさらなる向上を目指し、コンプライアンスや環境保全活動の推進をはじめとした企業の社会的責任（CSR）を遂行してまいります。

（1）CSR活動の着実な推進

よんでんグループでは、「皆さまから信頼される企業づくり」のため、従業員一人ひとりがCSRを意識した行動を行うための基本方針である「よんでんグループ行動憲章」を定めるとともに、7つの柱からなるCSR活動に積極的に取り組んでいます。

◆ CSR活動の7つの柱 ◆

I 電力の安定供給の遂行

II コンプライアンスの推進

III 環境保全活動の推進

IV 開かれた経営の実践

V お客さま志向の徹底

VI 従業員活力の維持・向上

VII 地域共生活動の推進

（2）情報開示の徹底と対話活動の推進

地域の皆さまとの信頼関係の構築には、タイムリーで適切な情報公開は欠かせません。原子力発電所の透明性の高い情報公開制度の先例である「伊方方式」の遵守などを通じ、情報開示の徹底に努めてまいります。

また、トップ層から現場第一線の従業員まで、ステークホルダーの皆さまとの対話活動を積極的に展開し、双方向のコミュニケーションの充実・強化を図り、開かれた経営を実践してまいります。



伊方発電所周辺の皆さまへの訪問対話活動



All Rights Reserved©2010 YONDEN Shikoku Electric Power Co.,Inc.

3つ目の重点課題は、「よんでんグループの社会的価値・信頼ブランドの向上」であります。

当社グループでは、地域社会からの信頼こそが全ての事業活動の源泉であるとの認識のもとで、「CSR活動の推進」や「情報開示の徹底と対話活動の推進」に取り組んでおります。

原子力発電所における透明性の高い情報公開制度の先駆けとなった、いわゆる「伊方方式」はその取組みの代表であり、今後ともこうした地道な取組みを通じて地域の皆さまとの信頼関係を構築してまいります。

当然、株主・投資家の皆さまに対しましては、こうした説明会の場などを通じまして、双方向コミュニケーションをより一層深めてまいりたいと考えております。

3. よんでんグループの社会的価値・信頼ブランドの向上 (2/3) 18

(3) 地球温暖化対策の推進

地球温暖化対策については、京都議定書の第一約束期間（2008～2012年度）の平均のCO₂排出原単位（使用量1 kWh当たりのCO₂排出量）を1990年度比で20%削減する目標を掲げています。低炭素社会の実現を目指し、今後とも、目標達成に向けた取り組みを推進してまいります。

目標達成に向けた取り組み

- 原子力の安全・安定運転
- 坂出発電所へのLNG導入
- 設備効率の向上
- 新エネルギーの活用
- 省エネルギー・負荷平準化の推進
- 京都メカニズムの活用

CO₂排出原単位の実績と目標

(kg-CO ₂ /kWh)		
1990年度 実績	2008年度 実績	目 標
0.408	0.326 (0.378)	0.326

※：（ ）内は京都メカニズムクレジット反映前の数値

○ メガソーラー発電の導入

松山太陽光発電所を増設し、メガソーラー発電を導入いたします。

		出力 (kW)
既 設		300
増設計画	第一期 (平成23年1月)	1,742
	第二期 (平成32年度までに)	約2,300



松山太陽光発電所（現状）



All Rights Reserved©2010 YONDEN Shikoku Electric Power Co.,Inc.

「地球温暖化対策の推進」について、当社は、2008～12年度の5ヶ年平均のCO₂排出原単位を90年度比で20%削減することを目標として掲げており、その達成を目指して様々な取り組みを進めております。

その一環として、松山太陽光発電所においてメガソーラーの導入計画を進めており、第一期として平成23年1月に1,742kW、さらに第二期として平成32年度までに約2,300kWを増設することとしております。

3. よんでんグループの社会的価値・信頼ブランドの向上 (3/3) 19

○ グループ一体となった風力発電事業の展開

よんでんグループでは、グループ一体となって積極的に風力発電事業に取り組んでいます。

事業主体	設置県	出力 (kW)
四国電力 (室戸風力発電所)	高知県	300
三崎ウィンド・パワー	愛媛県	20,000
大川原ウィンドファーム	徳島県	19,500
穎娃 (えい) 風力発電※	鹿児島県	14,000

※：平成22年7月 営業運転開始 予定



三崎ウィンド・パワーが運営する三崎ウィンドパーク

○ 木質バイオマスの本格導入

西条発電所では、国内の電力会社では最も早い平成17年7月から、燃料の石炭に木質バイオマスを混合して燃焼させる運用を開始しています。



木質バイオマスの受け入れ (西条発電所)

○ 電気自動車の導入

環境性能に優れた電気自動車の普及促進に向けて、グループを挙げて取り組んでいます。当社では、平成32年を目途に、業務用車両の半数にあたる300台まで導入を進める予定です。



All Rights Reserved©2010 YONDEN Shikoku Electric Power Co.,Inc.

「地球温暖化対策の推進」に向けたその他の取り組みとして、

- ・ グループ一体となった風力発電事業の展開
- ・ 当社西条発電所での木質バイオマスの本格導入
- ・ 環境性能に優れた電気自動車の当社業務用車両への導入

などを進めております。

【参考】企業集団の状況 (平成22年3月末現在)

20

電気事業	<p>四国電力(株) ← ○電力の販売</p> <p>土佐発電(株)</p>
情報処理 電気通信 放送	<p>○情報システムサービス、インターネット接続サービス、専用線サービス、個人向け光サービス[FTTH]、有線テレビジョン放送など</p> <p>(株)STNet (株)ケーブルメディア四国 ケーブルテレビ徳島(株)</p>
製造	<p>○電力供給用電気機器・電子機器等の製造・販売など</p> <p>四国計測工業(株) テクノ・サクセス(株) 四変テック(株) エコ・テック(株)</p>
建設 エンジニアリング	<p>○電気・機械・土木・建築関係工事の調査・設計・施工など</p> <p>四電エンジニアリング(株) (株)四電工 [持分法適用] 四電技術コンサルタント</p>
商事 不動産 エネルギー 運輸 環境 サービス	<p>○ビル賃貸、電力利用機器等の販売、熱供給、介護サービス、LNG貯蔵・気化、物資輸送、植林、揚運炭など</p> <p>四電ビジネス(株) 坂出LNG(株) 橋火力港湾サービス(株) 四電エンジニアサービス(株) 四国航空(株) (株)徳島市高PFIサービス 三崎ウィンド・パワー(株) (株)よんでんライフケア (株)よんでんメディアワークス (株)宇多津給食サービス 三崎(えい)風力発電(株) Yonden Afforestation (株)大川原ウインドファーム Australia Pty.Ltd. (日本語名)四国電力豪州植林(株)</p>
研究開発	<p>○電力の利用や供給に関する技術、バイオや新素材に関する技術の調査・研究・開発など</p> <p>(株)四国総合研究所</p>



[凡例] 連結子会社 非連結子会社 関連会社

All Rights Reserved©2010 YONDEN Shikoku Electric Power Co.,Inc.

参考として、当社企業集団の状況を記載しております。

以上で、「平成22年度の経営計画の概要」の説明を終わります。

よんでんグループは、持続可能な成長に向け、様々な経営課題に積極的に取り組むことにより、お客さまや株主の皆さまをはじめ、全てのステークホルダーの皆さまから信頼され、選択される企業グループであり続けたいと考えております。

皆さま方におかれましては、今後とも、よんでんグループの事業運営に格段のご理解とご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

ホームページアドレス <http://www.yonden.co.jp>

地域と共に生き 地域と共に歩み 地域と共に栄える



四国電力株式会社